

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 9 月 26 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02040

研究課題名(和文) 高等教育改革と人文学 - 日仏比較研究一

研究課題名(英文) Higher Education Reform and Humanities-Comparative study on Japan and France

研究代表者

白鳥 義彦 (SHIRATORI, Yoshihiko)

神戸大学・人文学研究科・教授

研究者番号：20319213

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：2010年代後半以降の日仏の高等教育改革それ自体についての研究という第一の水準(具体的な論点として、「大衆化」と「卓越化」との二律背反への対処、大学と教養教育/職業教育、高大接続の新たな展開、「大学界」という視点、全般的背景としての高等教育改革の歴史的展開過程、を設定)、日仏両国における高等教育改革の、人文学に対する影響についての比較考察という第二の水準、さらに、「モデルの伝播」という概念を両国の高等教育改革から引き出し、人文学研究への普遍的な応用を考えるという第三の水準、という本科研費の研究課題を念頭に研究を進め、論文、図書、学会発表として研究成果を積極的に公表することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本では、高等教育研究のモデルとして、米英が取り上げられることが多いが、グローバル化の進む今日の高等教育においては、自国語で高等教育を行うことが可能であるがゆえに相対的に周縁的な位置に置かれているという点で、日仏両国は共通の特性を有している。こうした共通点と、一方での両国に固有の相違点を明らかにしながら比較研究を行い、とりわけ2000年代以降の改革が日仏それぞれの高等教育システムおよびその中でもとりわけ人文諸学にいかなる変化をもたらしているかということ、科学史や社会学や文学をはじめとする多角的、学際的な視点を踏まえつつ明らかにした点に、研究成果の学術的意義、社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：We carried on our research based on our project. The first level of research is on the higher education reforms themselves in France and Japan since the late 2010s (with the specific issues of: 1) addressing the dichotomy between "massification" and "excellence", 2) universities and liberal/vocational education, 3) new developments in secondary and higher education connections, 4) the "university field" perspective, 5) the historical development process of higher education reform as general background. The second level is a comparative study of the impact of higher education reforms in Japan and France on the humanities. The third level is to draw out the concept of "model propagation" from higher education reforms in the two countries and consider its universal application to humanities research. We were able to advance our research and actively publish our research results in the form of articles, books and conference presentations.

研究分野：社会学

キーワード：高等教育改革 人文学 日仏比較 フランス

1. 研究開始当初の背景

日本とフランスの高等教育はいま同じような問題を抱え、その困難はますます深化している。両国の高等教育は、「大衆化」と「卓越化」という二律背反的な課題に同時に対処することが求められる状況に直面しており、さらに、高等教育においても進行しつつある英語を中心とした「グローバル化」の状況の中で、それぞれの国の固有の歴史や伝統を無視して行われる「世界の大学ランキング」等に翻弄される様相も見られる。そして、日本で2004年の国立大学法人化、フランスで2007年の「大学の自由と責任に関わる法律(LRU)」に象徴的に示されるような「自由化」を推進する方向性が政策として進められ、各大学は、競争的な環境にますます置かれつつある。従来は「象牙の塔」という言葉に象徴されるように、ともすれば俗世間から一定の距離を置いて大学が教育研究を行うことも可能であったかもしれないが、そうした状況を過去のものとする、職業教育への志向を求める動きや、産学連携といった声の高まりなども、近年の大学の変容を示すものとして指摘することができる。

日仏両国は、新たな高等教育のあり方を探り、改革を進めている。日本では2013年に文部科学省から出された「国立大学改革プラン」において、第二期中期目標期間が終わる2015年度末までの時期が「改革加速期間」として定義づけられ、また2016年度からの第三期中期目標期には、「教育研究組織や学内資源配分について恒常的に見直しを行う環境を生み出す」とされて、こうした枠組みの中で高等教育政策が進められている。フランスでも2007年の上記「大学の自由と責任に関わる法律」を展開する形で2013年に「高等教育・研究法」が成立し、大学の組織運営の変化や、新たな大学評価機関の創設、大学および研究機関を統合する「大学・機関共同体(COMUE)」の導入等の、大きな変革の動きが見られる。こうした改革の動き自体を分析し、それを踏まえてさらにそうした改革が人文学にどのような影響を及ぼしているかということをも明らかにしたいということが、本研究開始当初の背景である。

2. 研究の目的

近年、大学は国内的に見てもグローバル的に見ても競争的な状況に置かれていることは否めない。競争によって効果が得られる側面も確かにあるだろうが、それによって大学本来のあり方が失われてしまう側面もあるのではないだろうか。高等教育や研究体制が時代に即して改革を進めていくことは確かに必要であろうが、同時に、時代の波に翻弄されることによって失われかねない、高等教育の真にあるべき姿を求めていくこともまた必要であろう。現状に対するこうした見方は素朴なものであるのかもしれないが、大学という制度の歴史的な展開を踏まえながら今日の状況をとらえる視点、また日本の状況のみを見るのではなくフランスを比較の対象とすることによって得られる重層的な視点から、あらためて近年の高等教育改革の意味を問い直すということが本研究の目的である。

日本では、高等教育研究のモデルとして、米英が取り上げられることが多いが、グローバル化の進む今日の高等教育においては、自国語で高等教育を行うことが可能であるがゆえに相対的に周縁的な位置に置かれているという点で、日仏両国は共通の特性を有している。こうした共通点と、一方での両国に固有の相違点を明らかにしながら比較研究を行おうということも、日本とフランスとの比較を踏まえて本研究を進めていこうとする目的の一つにある。

上記のような大きな枠組みを念頭に置きながら、日本とフランスという二つの国の高等教育の歴史を踏まえつつ、具体的な諸問題に関する考究を進め、とりわけ2000年代以降の改革がどのような変化を日仏それぞれの高等教育システムおよびその中でもとりわけ人文諸学にもたらしているかを、比較分析を通じて明らかにしようということが、より具体的な観点からの本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究は大きく三つの水準で遂行される。第一の水準では、2010年代後半の今日における日本とフランスの高等教育改革それ自体を研究の対象に据え、それぞれのシステムの歴史と構造を踏まえながら、現行の改革の意味を比較考察する。研究を進めるための主たる軸として具体的には、「大衆化」と「卓越化」との二律背反への対処、大学と教養教育/職業教育、高大接続の新たな展開、「大学界」という視点、全般的背景としての高等教育改革の歴史的展開過程、の五つを設定する。については、今日、高等教育進学者の増大による高等教育の大衆化が日仏両国で所与の状況とされる一方で、国際的な競争的環境の中で、「卓越化」を目指す方向も強く打ち出されている。「卓越化」を目指す手段として、COE等に象徴されるプロジェクト型の拠点形成といった同じような方策が日仏両国で用いられ、また例えばフランスにおける「大学・機関共同体(COMUE)」の設置も、「卓越化」を求めることが理由の一つとされている。こうした「大衆化」と「卓越化」という二律背反への対応が日仏両国においてどのような形で行われているのかを比較考察によって明らかにする。については、大学の「大衆化」とともに、かつてのようなエリート養成という側面に代わって、実社会ですぐに役に立つとされるような職業教育を行うことが大学に要請される風潮が強まっている。日本では、職業教育に特化した新しい種

類の「専門職業大学」の創設の具体化が進むなど、大学と職業教育との関係は新たな局面にある。フランスは「職業学士」、「職業修士」等によって、大学での職業教育が制度的に先行している側面が見られるので、この観点から日仏の比較検討を行う。また職業教育と対比的にとらえられ得る教養教育についても、近年求められる学士課程教育における教養教育の内容について、あらためて再検討が必要である。こうした考察を通じて、広く大学での教育のあり方そのものについての問い直しを行う。については、日本におけるセンター試験に代わる新テストの導入、フランスにおける大学入学に際しての選抜導入の動きという、大きな変化を見据えながら研究を進める。どちらも、それぞれの国の高等教育に大きなインパクトを与えるものであり、具体的な考察を進めていく。については、ブルデューによる「界(champ)」の概念に基づきながら、「大学界」というものがそもそも存立し得るのか、存立するとすればどのように動くものとしてとらえることができるのかを考察する。については、上記のような近年の改革の諸動向について、歴史的な展開の中に位置づけて理解する視点が重要である。長期的なスパンでは19世紀末以降、より短期的なスパンでは第二次世界大戦後や1960年代以降の、日仏両国の高等教育の改革の過程を、研究全体の背景をなす基盤として考究する。

第二の水準として、両国における高等教育改革の、人文学に対する影響を比較考察する。具体的にはまず、教員数、学生数等の量的な観点、学問の内容に関わる質的な観点の双方から、一連の改革の人文学への影響を明らかにする。日本から見るとフランスは人文学がより尊重されているようにも思われるが、フランス側の研究協力者からの内部の視点を得ながら研究を進め、その実態を明らかにする。また、高等教育改革と人文学との関係という視点は、フランス第三共和政初期の高等教育協会や、日本の1960年代末からの「大学史研究通信」への参集などの、学際的な活動も念頭に置くことができる。本研究メンバーのもともとの学問分野を踏まえて、人文学への影響を多面的に考察する。

さらに第三の水準として、より抽象的なレベルで「モデルの伝播」という概念を両国の高等教育改革から引き出し、人文学研究への普遍的な応用を考える。高等教育改革は他国をモデルに進められることが多いが、社会状況が異なれば単に制度を導入しても現実には当初の想定とは異なる状況を生み出すことも考えられる。高等教育改革という具体的な事例を出発点に、より抽象的には、モデルの導入の理念と現実との乖離という観点から、より普遍的に応用可能な概念の構築を目指す。

4. 研究成果

研究期間全体を通じて、「人文学」のあり方そのものを考察の対象とするという本科研費研究の基本的な問題関心に沿いながら、科学史や社会学や文学をはじめとする多角的、学際的な視点を踏まえつつ、そうした諸学問そのものについてや、さらに社会における学問の位置等についての研究を、日仏比較という観点を軸に進めることができた。そして、こうした研究を通じて、大学における学問のあり方について根本的な視点から考察を深めた研究成果を得て、それらを書籍、雑誌論文、学会発表等として発表することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計37件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 16件）

1. 著者名 白鳥義彦	4. 巻 39
2. 論文標題 エミール・ブトミーとシアンズ・ポー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会学雑誌	6. 最初と最後の頁 133-140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 白鳥義彦	4. 巻 289, 73 (1)
2. 論文標題 【書評】流王貴義著『デュルケムの近代社会構想 有機的連帯から職能団体へ』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会学評論	6. 最初と最後の頁 74-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 白鳥義彦	4. 巻 3550
2. 論文標題 【書評】平田文子著『デュルケーム世俗道徳論の中のユダヤ教 ユダヤの伝統とライシテの狭間で』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 図書新聞	6. 最初と最後の頁 5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Sayaka OKI	4. 巻 407, 2022(1)
2. 論文標題 Les finances de l'Academie Royale des Sciences : histoire des tentatives d'obtention d'un financement durable pour les institutions scientifiques (文字化けを避けるためアクセント記号は付していない)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Annales historiques de la Revolution francaise (文字化けを避けるためアクセント記号は付していない)	6. 最初と最後の頁 29-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高瀬堅吉, 中村征樹, 立花浩司	4. 巻 58(1)
2. 論文標題 <座談会> 従来の科学コミュニケーションの枠を超えるシチズンサイエンスの可能性と今後に向けた対話	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本の科学者	6. 最初と最後の頁 5-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村征樹	4. 巻 53
2. 論文標題 科学技術政策の展開 人文・社会科学包摂の意	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 法の科学	6. 最初と最後の頁 98-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 シリル・ルミュー著、白鳥 義彦訳	4. 巻 43
2. 論文標題 社会学史と歴史社会学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会学史研究	6. 最初と最後の頁 41-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 白鳥 義彦	4. 巻 28
2. 論文標題 古典再訪 田原音和著、『歴史のなかの社会学 デュルケームとデュルケミアン』、木鐸社、1983年	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日仏教育学会年報	6. 最初と最後の頁 93-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大前 敦巳	4. 巻 41巻1号
2. 論文標題 フランスの女子高等師範学校における教員養成	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 上越教育大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 47-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Atsumi OMAE	4. 巻 28
2. 論文標題 L'expansion des ecoles normales superieures d'avant-guerre dans les regions metropolitaines en France et au Japon (文字化けを避けるためアクセント記号は付していない)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日仏教育学会年報	6. 最初と最後の頁 21-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大前 敦巳	4. 巻 28
2. 論文標題 古典再訪 中嶋明勲著『フランス教育社会学研究』風間書房、1999年	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日仏教育学会年報	6. 最初と最後の頁 90-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大前 敦巳	4. 巻 109
2. 論文標題 書評 細尾萌子・夏目達也・大場淳[編著]『フランスのパカロリアにみる論述型大学入試に向けた思考力・表現力の育成』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育社会学研究	6. 最初と最後の頁 117-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大前 敦巳	4. 巻 32
2. 論文標題 書評 園山大祐編『フランスの高等教育改革と進路選択：学歴社会の「勝敗」はどのように生まれるか』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日仏社会学会年報	6. 最初と最後の頁 99-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 市田 秀樹、中村 征樹	4. 巻 5
2. 論文標題 対話型・参加型教育を促す研究公正教材の国際動向：「Path2Integrity」「Dilemma Game」を題材に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 RI : Research Integrity Reports	6. 最初と最後の頁 20-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24729/00017486	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村 文彦、市田 秀樹、中村 征樹	4. 巻 5
2. 論文標題 共同研究で何に留意すべきか：国内の研究不正事案からの検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 RI : Research Integrity Reports	6. 最初と最後の頁 41-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24729/00017487	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋 良和、塩尻 かおり、駒井 章治、中村 征樹、半場 祐子	4. 巻 0<創刊準備号>
2. 論文標題 問3 単純化しすぎた世界：科学のプロフェッショナリズムがもたらす期待と脅威	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 といとうとい	6. 最初と最後の頁 34-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/toi toutoi_00_3e	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村 征樹	4. 巻 26
2. 論文標題 科学技術基本法改正と人文・社会科学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学術の動向	6. 最初と最後の頁 5_36-5_41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5363/tits.26.5_36	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 隠岐 さや香	4. 巻 19
2. 論文標題 ジェンダーと社会科学 : 比較対象としての経済学 (特集 科学技術人材のダイバーシティ研究)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 科学技術社会論研究	6. 最初と最後の頁 53-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 隠岐 さや香	4. 巻 26
2. 論文標題 科学技術基本法改正と国際的なイノベーション政策の動向 : 総合コメント	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学術の動向	6. 最初と最後の頁 5_42-5_47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5363/tits.26.5_42	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 隠岐 さや香	4. 巻 135 (8)
2. 論文標題 「大きな物語」が喪失した時代 新たな知の共同体を作れるか (特集 教養と自己啓発の深い溝)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中央公論	6. 最初と最後の頁 62-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 隠岐 さや香	4. 巻 26
2. 論文標題 日本学術会議を知る(7) アカデミー史の中における日本学術会議	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学術の動向	6. 最初と最後の頁 10_78 ~ 10_81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5363/tits.26.10_78	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 シリル・ルミュー著、白鳥義彦訳	4. 巻 42
2. 論文標題 フランスにおける社会学の展開	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会学史研究	6. 最初と最後の頁 133-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 フレデリック・ヴィエノ著、白鳥義彦訳	4. 巻 27
2. 論文標題 グランド・ゼコール準備級 フランス的特殊性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日仏教育学会年報	6. 最初と最後の頁 69-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 白鳥義彦	4. 巻 27
2. 論文標題 新刊紹介 志水宏吉監修、ハヤシザキ・カズヒコ、園山大祐、シム チュン・キャット編著『世界のしんどい学校 東アジアとヨーロッパにみる学力格差是正の取り組み』(シリーズ・学校格差 第4巻<国際編>)、明石書店、2019年	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日仏教育学会年報	6. 最初と最後の頁 104-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白鳥義彦	4. 巻 27
2. 論文標題 新刊紹介 マリアヌ・ブランシャール、ジョアニ・カリエット＝ランブリエール著、園山大祐監修、田川千尋訳『学校の社会学 フランスの教育制度と社会的不平等』 明石書店、2020年	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日仏教育学会年報	6. 最初と最後の頁 107-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 隠岐さや香	4. 巻 295
2. 論文標題 科学史：知を俯瞰するためのリテラシー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 科学史研究 [第 期]	6. 最初と最後の頁 298-302
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 隠岐さや香	4. 巻 0
2. 論文標題 社会的合理性のための自然科学と人文社会科学の連携？ - ; 「誰一人取り残さない」ためには	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 基幹プログラム報告書 SDGs とコロナパンデミックの時代における科学技術のあり方を考える	6. 最初と最後の頁 53-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村征樹	4. 巻 245巻4号
2. 論文標題 シチズンサイエンスの普及にむけて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学術の動向	6. 最初と最後の頁 38-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5363/tits.25.4_38	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡山茂	4. 巻 2021年1月号
2. 論文標題 GA F A Mの帝国と「象徴の森」 オンライン時代の大学論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福音と世界	6. 最初と最後の頁 6-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡山茂	4. 巻 149
2. 論文標題 「大学 / 文学」論序説、フランス象徴主義とは何か	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教養諸学研究	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡山茂	4. 巻 27
2. 論文標題 新刊紹介 『世界の悲惨』という書物 ピエール・ブルデュール編、荒井文雄・櫻本陽一監訳『世界の悲惨』(全3分冊) 藤原書店、2019-2020年	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日仏教育学会年報	6. 最初と最後の頁 101-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大前敦巳	4. 巻 27
2. 論文標題 新刊紹介 Bourillon, F., Gorochoy, N., Nogués, B. et Vadelorge, L. (dir.), L'université et la ville : Les espaces universitaires et leurs usages en Europe du XIIIe au XXIe siècle, Presses Universitaires de Rennes, 2018. (大学と都市 : 13世紀から21世紀までのヨーロッパにおける大学空間とその利用)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日仏教育学会年報	6. 最初と最後の頁 95-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大前敦巳	4. 巻 41-1
2. 論文標題 フランスの女子高等師範学校における教員養成	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 上越教育大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 シルヴィ・アミシ著、白鳥義彦訳	4. 巻 26
2. 論文標題 社会への移行に向けた生徒の伴走支援におけるキャリア・カウンセラーの位置付け	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日仏教育学会年報	6. 最初と最後の頁 59-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大前敦巳	4. 巻 39-1
2. 論文標題 フランスにおける教職のメチエとコンピテンシー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 上越教育大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 9-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大前敦巳	4. 巻 39-2
2. 論文標題 フランスにおける高等師範学校の拡張過程	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 上越教育大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 269-279
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 OKI Sayaka	4. 巻 1(51)
2. 論文標題 Le tatonnement de l'expertise scientifique moderne. Les eloges de Condorcet comme lieux de reflexion sur le role social des savants	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Dix-huitieme siecle	6. 最初と最後の頁 489 - 505
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計18件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 白鳥義彦
2. 発表標題 19世紀フランスにおける社会主義と社会学 - 19世紀のフランス社会と社会学 -
3. 学会等名 第95回日本社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大前敦巳
2. 発表標題 海軍・特攻隊からスポーツ・ロケットへー鹿児島県大隅半島の大学と研究所
3. 学会等名 日本高等教育学会第25回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡山茂
2. 発表標題 大学 / 文学、あるいは不在の大学について
3. 学会等名 日仏教育学会2022年度研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 隠岐さや香
2. 発表標題 戦後日本における「学問の自由」の困難な歴史－科学史の視点から－
3. 学会等名 日仏教育学会 2022年度研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 白鳥 義彦
2. 発表標題 フランスにおけるエリート養成機関
3. 学会等名 日本高等教育学会第24回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 白鳥 義彦
2. 発表標題 フランス国立工芸院 (CNAM) の歴史的・社会的地位
3. 学会等名 第73回日本教育社会学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 白鳥 義彦
2. 発表標題 結社としてのグランド・ゼコール協議会 (CGE)
3. 学会等名 2021年度日仏教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 白鳥 義彦
2. 発表標題 「集合意識」概念の展開可能性
3. 学会等名 第94回日本社会学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大前 敦巳
2. 発表標題 パリと東京における高等教育拡大の日仏比較試論
3. 学会等名 2021年度日仏教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 白鳥義彦
2. 発表標題 エミール・ブトミーとシアンス・ポー
3. 学会等名 第72回日本教育社会学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 白鳥義彦
2. 発表標題 フランスにおける大学区長 (recteur d'académie) 歴史的観点とともに
3. 学会等名 第93回日本社会学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大前敦巳
2. 発表標題 フランスの女子高等師範学校における教員養成
3. 学会等名 日仏教育学会2020年度第2回オンライン研究交流会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 白鳥義彦
2. 発表標題 フランスの大学入学制度における近年の変化
3. 学会等名 第71回日本教育社会学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白鳥義彦
2. 発表標題 日本の高等教育 フランスとの比較とともに
3. 学会等名 山東大学招聘講義（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Frederic VIENOT（フレデリック・ヴィエノ）、白鳥義彦通訳
2. 発表標題 《Les Classes preparatoires aux grandes ecoles : une specificite francaise》「グランド・ゼコール準備級 フランス的特殊性」
3. 学会等名 研究会 フランスのグランド・ゼコール準備級（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上垣豊
2. 発表標題 バカロレア試験で問われる思考力・表現力の歴史的変遷 - ディセルタションへの道程 -
3. 学会等名 日仏教育学会 2019 年度 研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大前敦巳
2. 発表標題 フランスにおける高等師範学校の拡張過程
3. 学会等名 日本高等教育学会第22回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 OMAIE Atsumi
2. 発表標題 L'expansion des ecoles normales superieures d'avant-guerre dans les regions metropolitaines en France et au Japon
3. 学会等名 日仏教育学会 2019 年度 研究大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 神戸大学人文学研究科・編、白鳥義彦他	4. 発行年 2023年
2. 出版社 神戸大学出版会	5. 総ページ数 248
3. 書名 人文学を解き放つ	

1. 著者名 橋本 鉱市・阿曾沼 明裕編著、白鳥 義彦他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 214
3. 書名 よくわかる高等教育論	

1. 著者名 内田 樹、ヤマザキ マリ、上野 千鶴子、堤 未果、桐野 夏生、村山 由佳、藤原 辰史、姜 尚中、小熊 英二、望月 衣塑子、津田 大介、会田 誠、平田 オリザ、前川 喜平、永井 愛、石川 健治、隠岐 さや香、池内 了、阿部 公彦、山崎 雅弘、苫野 一徳、鈴木 大裕、高橋 哲哉、佐藤 学、杉田 敦、山田 和樹	4. 発行年 2021年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 400
3. 書名 「自由」の危機 息苦しさの正体	

1. 著者名 ブノワ・ゴダン著、松浦 俊輔訳、隠岐 さや香解説	4. 発行年 2021年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 216
3. 書名 イノベーション概念の現代史	

1. 著者名 初田 哲男、大隅 良典、隠岐 さや香、柴藤 亮介	4. 発行年 2021年
2. 出版社 柏書房	5. 総ページ数 216
3. 書名 「役に立たない」研究の未来	

1. 著者名 池内 了、隠岐 さや香、木本 忠昭、小沼 通二、広渡 清吾	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 96
3. 書名 日本学会議の使命	

1. 著者名 竹崎 一真、山本 敦久、杉山 文野、岡田 桂、渡部 麻衣子、標葉 靖子、隠岐 さや香、久保 友香、関根 麻里恵、田中 東子、重田 園江、山本 由美子、門林 岳史	4. 発行年 2022年
2. 出版社 堀之内出版	5. 総ページ数 216
3. 書名 ポストヒューマン・スタディーズへの招待	

1. 著者名 日本科学史学会編、中村征樹他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 758
3. 書名 科学史事典	

1. 著者名 細尾 萌子、山村滋、夏目達也、上垣豊、大場淳、田川千尋、三好美織、大津尚志、生田清人	4. 発行年 2022年
2. 出版社 広島大学高等教育研究開発センター 高等教育研究叢書164号	5. 総ページ数 130
3. 書名 大衆教育社会におけるフランスの高大接続	

1. 著者名 油井清光、白鳥義彦、梅村麦生	4. 発行年 2020年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 288
3. 書名 社会学	

1. 著者名 デュルケーム/デュルケーム学派研究会、中島 道男、岡崎 宏樹、小川 伸彦、山田 陽子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 264
3. 書名 社会学の基本 デュルケームの論点	

1. 著者名 川口 茂雄、越門 勝彦、三宅 岳史	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 442
3. 書名 現代フランス哲学入門	

1. 著者名 細尾 萌子、夏目 達也、大場 淳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 298
3. 書名 フランスのバカロレアにみる 論述型大学入試に向けた思考力・表現力の育成	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岡山 茂 (OKAYAMA Shigeru) (10308132)	早稲田大学・政治経済学術院・教授 (32689)	
研究分担者	大前 敦巳 (OHMAE Atsumi) (50262481)	上越教育大学・大学院学校教育研究科・教授 (13103)	
研究分担者	上垣 豊 (UEGAKI Yutaka) (80183747)	龍谷大学・法学部・教授 (34316)	
研究分担者	隠岐 さや香 (OKI Sayaka) (60536879)	名古屋大学・経済学研究科・教授 (13901)	
研究分担者	中村 征樹 (NAKAMURA Masaki) (90361667)	大阪大学・全学教育推進機構・教授 (14401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 日仏教育学会2022年度研究大会	開催年 2022年～2022年
----------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------